

Hara Museum of Contemporary Art

Press Release 2012/12/18

ショートフィルムズ・バイ・ミランダ・ジュライ

2013年1月13日[日] 17:30-19:30 原美術館 [東京・品川]



Miranda July on the set of THE FUTURE ©Aaron Beckum 2011



Image copyright of the artist, Courtesy of Video data Bank (上下とも)

この度、原美術館では、マルチアーティスト、ミランダ ジュライの短編映画集を上映いたします。2008年、横浜トリエンナーレで話題の的となったインスタレーション作品『廊下』や、外国文学としては異例の人気作となった短編小説集『いちばんここに似合う人』など、多方面で着実な活動を展開するミランダ ジュライ。新春にはシアター・イメージフォーラム（東京・渋谷）にて新作長編映画『ザ・フューチャー』の公開も予定されています。今回は、世界中の映画祭で上映されながら、日本ではまだ紹介されることの少ない、その短編映像作品に触れることのできる貴重な機会となります。

また、当日は小説『いちばんここに似合う人』翻訳者、岸本佐知子氏をゲストに迎え、アフタートークも開催いたします。
*大型インスタレーション作品『廊下』は、ハラ ミュージアム アーク（群馬・渋川）にて2013年3月16日[土]から6月26日[水]まで開催の「紡がれた言葉—ソフィ カルとミランダ ジュライ/原美術館コレクション」展に出品されます。

日時 2013年1月13日 [日] 17:30-19:30 (本編 計66分 + アフタートーク)
会場 原美術館ザ・ホール
東京都品川区北品川 4-7-25 〒140-0001
Tel 03-3445-0651 (代表) Fax 03-3473-0104 (代表) E-mail info@haramuseum.or.jp
主催 原美術館、ダゲレオ出版

参加費 (入館料含む) 一般 2000円 / 学生 1700円 / 原美術館メンバーシップ会員、イメージフォーラム会員 1000円
申込受付開始日 2013年1月5日 [土] (先着順・定員80名)
申込方法 E-mailにてお申し込みください。メール表題に[1/13 ミランダ ジュライ上映会申込]と明記の上、「お名前」「参加人数」「ご連絡先電話番号」をお知らせください。E-mail info@haramuseum.or.jp
*受付開始日時以前のお申し込みは無効です。
*開催中の展覧会「MU[無] —ペドロ コスタ & ルイ シャフェス」は、上映会開始時刻までご覧いただけます。お早めにご来館ください。本イベントは多目的ホールでの上映会となります。
交通案内 JR「品川駅」高輪口より徒歩15分 / タクシー5分 / 都営バス「反96」系統「御殿山」停留所下車、徒歩3分

ウェブサイト <http://www.haramuseum.or.jp>
携帯サイト <http://mobile.haramuseum.or.jp>
ブログ <http://www.art-it.asia/u/HaraMuseum>
Twitter <http://twitter.com/haramuseum> (アカウント名 @haramuseum)

■上映作品

『アトランタ』(10分/1996年)

12歳のオリンピック水泳選手とその母(ミランダ ジュライによる一人二役)が、「金メダル獲得の夢」を視聴者に語る。

『アマチュア』(18分/1998年)

「プロ」の女性が「アマチュア」の女性(ミランダ ジュライによる一人二役)を監視カメラを使ってモニターしている。彼女は4年半観察しているが、そのアマチュアの女性とは一度も話したことがない。しかし彼女はそこに何かを読み取っている。

『ネスト・オブ・テンズ』(27分/2000年)

日常的で個人的なコントロールの手法について描いた4つの物語。そのコントロールのシステムは直感的に育まれたものである。子供と大人の発達不全の障害者が紙・リスト・怪物・自らの身体でできたコントロール・パネルを操作する。

『毎日つよくなる』(7分/2001年)

行方不明になって、見つかることについて。家族のもとから連れ去られ、数年後に戻ってきた2人の少年の話。

『HAYSHA ROYKO』(4分/2003年)

ポートランド国際空港で、3人の人物が空間とエネルギーの交感をする。

(5作品合計66分、日本語字幕付き、上映フォーマットは全てDVD)

■アフタートーク

ゲスト：岸本佐知子(翻訳家、ミランダ・ジュライ小説『いちばんここに似合う人』翻訳者)

聞き手：山下宏洋(イメージフォーラム・フェスティバル・ディレクター)

[ミランダ ジュライ Miranda July]

映画・現代美術・小説などマルチに領域を横断する創作活動で注目を浴びるアーティスト。1974年 米国カリフォルニア州パークレー生まれ、ロサンゼルス在住。

脚本、監督、主演を担当した初の長編映画『キミとボクの虹色の世界』(05)でサンダンス映画祭の審査員特別賞を受賞、カンヌ国際映画祭ではカメラドール(新人監督賞)を含む4部門を受賞、一躍脚光を浴びた。2013年新春、イメージフォーラム(東京・渋谷)にて公開予定の『ザ・フューチャー』(配給:パンドラ)はその長編第2作であり、ベルリン国際映画祭(11)コンペ部門に出品された。

現代美術家としても、パフォーマンス、ウェブを使ったインタラクティブアート、サウンド(ヴォイス)アートなど多彩な表現活動を続け、ニューヨーク近代美術館、グッゲンハイム美術館、ヴェネチア ビエンナーレ、ホイットニー ビエンナーレ等で展覧されている。横浜トリエンナーレ(08)に出品したインスタレーション作品『廊下』はひとときわ衆目を集め、その後、原美術館に収蔵された。(2013年春、別館ハラ ミュージアム アークにて展示予定) イメージフォーラム・フェスティバル 2003では彼女の短編映像作品を特集上映している。また、短編小説集『いちばんここに似合う人』(07)はフランク・オコナー国際短編賞を受賞、20カ国で出版された。次作の『It Chooses You』が新潮社より近々邦訳(岸本佐知子訳)発行予定である。

[岸本佐知子 Sachiko Kishimoto]

1960年横浜市生まれ。上智大学文学部英文科卒業。訳書にN・ベイカー『中二階』、S・ミルハウザー『エドウィン・マルハウス』、L・デイヴィス『ほとんど記憶のない女』、J・バドニッツ『空中スキップ』など多数。その他、編訳書に『変愛小説集』『居心地の悪い部屋』、エッセイ集に『気になる部分』『ねにもつタイプ』(第23回講談社エッセイ賞受賞)『なんらかの事情』がある。ミランダ ジュライの短編小説集『いちばんここに似合う人』は、海外文学作品としては異例のヒット作となり大きな話題を呼んだ。

お問い合わせ先:

原美術館 広報 野田、松浦(担当学芸員 青野) [Tel 03-3280-0679 Fax 03-5791-7630]

E-mail press@haramuseum.or.jp (いずれも広報直通/掲載時には代表番号・アドレスをお用ください)